■ 河合塾テキスト「地理総合，地理探究（共通テスト対応）〈2026 基礎シリーズ〉」演習問題 解説 ■

【第11講】

解答番号	正解	解　説	重要度
1	②	②：正文。図１は人口の大小を国の大きさで表現したカルトグラム（変形地図）である。アジア地域は最も大きく描かれているため，人口が最も多いことがわかる。また，東アジアや南アジアでは，人口密度はほとんどの国で高位や中位となっている。①：誤文。同様に，図１は面積の大小は表現されていない。また，人口密度が高位の国は２か国しかみられない。③：誤文。同様に，図１は人口増加率の高低は表現されていない。人口密度が高位の国は２か国しかみられない。④：誤文。中央アメリカでは，人口密度はほとんどの国で中位となっている。	★★
2	④	人口動態は，かつての長い期間，出生率と死亡率がともに高い①「多産多死型」であったが，衛生・栄養状態の改善や医療の進歩などによって，出生率が高いまま死亡率が急激に低下すると②「多産少死型」となり，人口が急増する（人口爆発）。その後，出生率は徐々に低下し③「少産少死型」へと移行する。この変化を人口転換という。これに対応するように，性別年齢別人口構成をグラフ化した人口ピラミッドも，①「富士山型」，②「ピラミッド型」，③「つり鐘型」の順に変化する。さらに出生率の低下が続くと，④「つぼ型」となり，人口の高齢化とともに自然増加率はマイナスとなる。②：発展途上国の多くにみられるピラミッド型で，Ｂ（インド）に該当する。③，④：いずれもピラミッド型から釣鐘型への移行期の状態にあたり，新興国のＣ（中国），Ｄ（ブラジル）のいずれかであるが，中国では 1979 年から 2015 年まで人口抑制政策（一人っ子政策）を実施したため，40 歳代前半以下の若年層の割合が相対的に小さい③が中国，相対的に大きい④がブラジルと判断できる。①：先進国の多くにみられるつり鐘型で，Ａ（フランス）に該当する。	★★
3	②	①：フランス。最も早い時期に経済が発展し社会が成熟したヨーロッパ諸国は，最も早い時期に高齢化社会を迎えたが，その後の老年人口率の上昇速度は緩やかである。②：カナダ。ヨーロッパ諸国に次いで早い時期に高齢化社会を迎えたが，若年層の移民も流入しているため，老年人口率の上昇速度は比較的緩やかである。③：日本。第二次世界大戦後に急速な経済発展を遂げたことにともない少子化が急激に進行したため，高齢化社会を迎えた時期は比較的遅かったが，急激に老年人口率が上昇し超高齢化社会となっている。④：中国。1979 年から 2015 年まで一人っ子政策を実施したことによって少子化が急激に進行したため，2000 年代になって高齢化社会を迎え，今後は急激に老年人口率が上昇し超高齢化社会となると予測される。なお，老年人口率が７％を超えると高齢化社会，14％を超えると高齢社会，21％を超えると超高齢社会という。	★★★
4	①	まず，④に注目すると，75 歳以上の高齢者の割合が高いため，**シ**はヨーロッパの先進国で高齢化が進展しているドイツと判断できる。よって，**サ**はシンガポールとなる。次に，Ｄは 20 ～ 40 歳代を中心に生産年齢人口の割合が高いため，労働力として流入した外国生まれと判断できる。シンガポール（**サ**）で女性の比率が高いのは，家事労働に従事する家政婦（メイド）として近隣諸国から流入する女性が多いためである。よって，Ｅは国全体となる。シンガポール（**サ**）は，経済発展によって少子化が進展し，年少人口の割合が低い。ドイツ（**シ**）は少子高齢化が進展し，年少人口の割合が低く老年人口の割合が高い。	★★★

5	③	栄養状態や公衆衛生環境の改善，医療の進歩にともない死亡率は低下し，次いで経済の発展や社会の成熟にともない出生率も低下する。高齢化が進展しはじめると再び死亡率は上昇する。④：バングラデシュ。後発発展途上国であり，死亡率の低下と出生率の低下が最も遅い。③：マレーシア。発展途上国であり，出生率の低下がバングラデシュに次いで遅い。②：韓国。アジア NIES の国であり，現在（2019 年）の出生率は一般的な先進国の水準よりもさらに低くなっている。①：カナダ。先進国であり，1980 年の段階で死亡率，出生率ともにすでに低い水準にある。	★★★
6	③	都市人口率は，産業が発達した先進地域をはじめ，ヨーロッパ人の入植拠点として都市が発達した新大陸地域などで高い傾向にある。また，人口の自然増加率は，発展途上地域で高い傾向にある。③：インドネシア。アジアの発展途上国で農村人口が多いため，都市人口率は低く，人口の自然増加率は高い。①：アルゼンチン。新大陸の発展途上国で農村人口が少ないため，現在では都市人口率は先進国水準に高い。また，発展途上国のため人口の自然増加率も高い。②：日本。先進国であるため都市人口率は高いが，少子高齢化の進展により人口の自然増加率は低くマイナス（人口の自然減少）となっている。④：ルーマニア。東欧の旧社会主義国で，先進国に比べて産業が発達しておらず都市人口率は低い。また，社会主義体制の崩壊後，出生率が低下し死亡率が上昇したため，人口の自然増加率は低くマイナス（人口の自然減少）となっている。	★★★
7	⑤	Ｐ：ｃ。「キリスト教の布教」，「貴金属を求めて」，「先住民との混血が進んだ」などから，ラテンアメリカへ移住したスペイン人やポルトガル人と判断する。Ｑ：ａ。「商業・金融分野で活躍」などから，アメリカ合衆国へ移住した中国人（華僑）と判断する。Ｒ：ｂ。「信教の自由を求めて」，「農業開拓移民として」などから，アメリカ合衆国へ移住したイギリス人(清教徒など)と判断する。	★★
8	④	Ｘ：**イ**。「サトウキビなどの換金作物の栽培に従事」，「日系人は人口の約 4 分の 1 を占める」などから，ハワイと判断する。Ｙ：**ウ**。「総数は 20 万人を越え」，「海外で最大の日系人社会を築いている」などから，ブラジルと判断する。Ｚ：**ア**。残った文章の説明がメキシコであるが，この文章だけでは判断しにくい。	★
9	①	①：正文。図**2**より，イギリス，南アフリカ共和国，スリランカ，シンガポール，アメリカ合衆国，カナダ，オーストラリア，フィジーなど，移住先の国籍を有する者は，英語を公用語とする国やイギリスの植民地であった国に多く分布することがよみ取れる。②：誤文。インドがイギリスの植民地であった第二次世界大戦以前に，東南アジアやカリブ海周辺地域の同じイギリスの植民地に移住したインド系住民（印僑）の多くは，さとうきびや天然ゴムなどのプランテーション農園での労働に従事した。③：誤文。西アジアの産油国は，オイルショック（石油危機）による原油価格の高騰で巨額の利益を得たことから，社会資本（インフラ）の整備のほか，高層ビル建設やリゾート開発などを進めたが，慢性的な労働力不足のため出稼ぎのインド系住民などがこれらの建設現場での労働に従事している。④：誤文。1990 年代以降，インドでは新経済政策によって経済活動の自由化が進み，コールセンターの立地をきっかけに，コンピュータ事務処理やソフトウェア開発などの情報通信技術（ICT）産業が，バンガロールをはじめ，デリー，ムンバイなどを中心に急速に発展した。	★★